

## 京都府地域創生推進会議 概要

○日 時 令和元年11月7日(木) 午後3時30分～午後4時30分

○場 所 京都ガーデンパレス「葵」

○出席者

赤瀬 史 日本労働組合総連合会京都府連合会副事務局長  
岡田憲和 京都市副市長  
(代理：総合企画局総合政策室 佐藤SDGs・市民協働推進部長)  
奥野美奈子 株式会社京都銀行執行役員／公務・地域連携部長  
小田一彦 一般社団法人京都府農業会議副会長  
澤井安子 京都府女性の船「ステップあけぼの」会長  
汐見明男 京都府町村会長(代理：西川事務局長)  
仲谷善雄 (公財)大学コンソーシアム京都理事長(代理：桂専務理事・事務局長)  
八田英二 学校法人同志社総長・理事長  
原田紀久子 (特非)アントレプレナーシップ開発センター理事長  
藤本明美 (特非)京都子育てネットワーク理事長  
松本紘(座長) 京都大学前総長／国立研究開発法人理化学研究所理事長  
宗田好史 京都府立大学副学長・生命環境学部教授  
京都府：山下副知事、稲垣政策企画部長、加藤政策企画部副部長、伏原戦略企画課長  
ほか

<第2期京都府地域創生戦略の中間案(たたき台)について>

○主な意見

・夢や希望を持ってない人や、失敗して夢や希望を失った人たちにも、もう一度夢と希望を持ってもらえるような具体的な策を、文化や地域の多様性に富んだ京都だからこそ、具体的に進めていただきたい。

・5年間の戦略という性格上、施策に選択と集中が必要ではないか。2～3個の目標に向かって、施策をスリム化して、重点的に取り組むものを絞り込んだ方が良い。分野別の施策を書きすぎることによって焦点がぼやけてくる恐れがある。

・施策には優先順位付けが必要ではないか。基本目標1～4の中で優先順位をつけるのは難しいと思うが、その下の施策の中でどれを優先すべきか、コストパフォーマンスはどうかなどを考えることが必要だと感じる。また、第1期の経験を活かし、目標がうまく達成されていないものについては見直すか、あるいはやめてしまうのも一つの考え。府民の方々が何を一番望んでいるかを配慮する必要があると考える。

・女性は男性よりも平均寿命と健康寿命が長いとか、「要介護2」の判定を受けてから亡くなるまでの時間が長く、医療費の負担になるということは健康問題の中で語られているが、若い世代から、長く健康に働きながら、という観点で施策を考えた方が良い。子育て世代、高齢者世代という割り方をするのではなく、世代に関係無く健康づくりに取り組むというように縦で考える必要があるのではないかと考える。

・地域活性化のためには、観光客数や地元の良さを社会にアピールするのは重要だが、子育て

て環境充実と相反する側面が問題である。今後、「京都子育て環境日本一サミット」が設置されるにあたり、どのような環境が日本一なのかという点で、子育てしやすい、女性が働きやすいといった、大人目線だけではなく、子供自身が地域で生まれ、遊ぶ権利がしっかりと保障されなければならない。子供の生きていく権利を見失わないよう、戦略を進めていただきたい。

- ・アントレプレナーシップの育成を、学校と連携して実施していける仕組みがあれば良い。新学習指導要領の中でも、主体的に課題解決できるように、アクティブな探求学習が奨励されているが、それを指導できる先生が十分に育っていない。また、生まれた時からデジタル機器に囲まれている世代の子供達にとって、今の学校の授業の在り方は時代に合わないものになっている。学校ではやりたいことができず、伸ばしたい力が伸ばせていないという意見もある。その部分にメスを入れなければ、私達の将来を担ってくれる人材が育たない。ぜひ、「京都初」という形で突出した取組をお願いしたい。

- ・子供を産みやすい環境を整えることは大切だが、産まれた子供たちを守ることも重要。親から虐待を受けて人生にハンデを負う事がないようにすることというのは、従来の養護施設のあり方では、なかなか手が届かない現状がある。このような現状にある子供たちが、「夢や希望を実現できる」形で、予算づけと施策をぜひお願いしたい。

- ・性別にかかわらずということであれば、男性の育児休業など、あらゆる性別の方の希望に応えられるような社会を目指すべきではないか。女性活躍ということに視点が置かれがちだと感じる。また、LGBTの方々に対しての視点もあれば良いと思う。

- ・介護をしながら働くという中で課題となってくる介護人材の確保について、「何人増やす」というのも重要であるが、離職者が多いということ踏まえると京都府総合計画の中でも「何人必要」という目標があるのであれば、KPIもそういった視点で目標を立てた方が効果的ではないか。

#### ○松本座長総括

- ・多様な方々が活躍されている京都なので、戦略としてどれに重きを置くのかというのは難しいが、多様性という視点を考えれば、女性、男性はもちろんだが、障害者、転入者といったこともあり、外国人も観光客としてだけ見るのではなく、もっと長い目で見れば、地域に根付いてくれる人が増えてくると思う。文化の多様性ということも含め、誰もが活躍できる地域社会を目指していただきたい。

- ・本日御発言できなかったことや、他に御意見があれば、事務局にメール等で御連絡をいただき、最終的に取りまとめをするにあたっては、事務局と座長に御一任いただき、改めて中間案を各委員に報告する方向で進める。